

壇上報告 1-4

森 壮也 日本貿易振興機構アジア経済研究所

#報告題目 中東における「障害と開発」

#報告キーワード 中東 障害と開発 ジェンダー

#報告要旨

これまでの「障害と開発」の世界の途上国を対象とした研究では、東南アジア、南アジア、アフリカなどがそのフィールドとして選ばれてきた。一方、中東地域の地域の障害者については、複数の国にまたがった他地域との違いの分析や中東地域を念頭に置いた、世界全体の障害者に共通する課題などの研究は行われていない。「中東における『障害と開発』」の研究を今後、発展させていくにあたって、どのような課題があるのかを明らかにするために、既存のこの地域の障害者を対象とした研究の俯瞰図を描こうとしたのが本報告である。

また中東地域内においても、国連の障害者権利条約の成立に見られるように、これまで周縁化されてきた障害者についての関心が、近年高まっているという国際的な潮流に対応した変化が見られる。1981年には、クウェート地域障害者に関する会議「アラブ障害者と共にする仕事の宣言 (Arab Declaration on Work with Disabled)」が開催され、1997年になると今度は、第10回イスラム法学を含む様々な法における心理学上の保健の法律に関する地域会議 ('Al-Mushāwara al-buldāniyya hawl tashrī'āt al-sihha a-nafsiyya bimā fi dhālik al-sharī'āa al-islāmiyya') がクウェートにおいて、イスラム医科学諸団体の主催、世界保健機関東地中海地域事務所 (WHO EMRO) が共催で開催された。さらに2000年上記のイスラム法の会議の並行会議で、サウジアラビアのリヤドで開催されている。この会議の主催は障害児協会と障害研究のためのサルマン王子センターである。翌2001年には前年の会議を受けて、「イスラム世界の障害者リハビリテーションと高齢者のためのケア：21世紀に向けた諸戦略」という会議がスーダンのハルツームで開催され、障害者の医学的治療、リハビリテーション、労働、訓練、税や関税の免除、平等、参加、社会的統合、平等な機会についてイスラムのシャリーアの観点から議論がされた。

一方、中東地域をフィールドとした既存研究では、社会開発、公衆衛生、特別支援教

育、障害当事者運動、障害者の生存の実態、障害リハビリテーション、文化、人権等、幅広い研究がこれまでなされてきており、中でも障害女性の問題に関心が寄せられていることが分かった。同地域の社会を支配するイスラームの規範はイスラム法である。このイスラム法においても障害についての記述が見られた。特に障害女性の問題について、このイスラム法を検討する必要もあることも分かった。

本報告は、「中東における『障害と開発』」について、他地域との違い、世界的な共通点などを明らかにしていくための序論である。

<邦文主要参考文献>

- 蒲生裕恵（2009）「パレスチナ女性の教育と労働―紛争下の日常生活をめぐって―」
岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要第27号（2009.3）
- 小村優太（2008）「イブン・シーナー『治癒の書』「霊魂論」における形相受容と直観の働き」『中世思想研究』50号、pp. 49-61
- _____（2016）「イブン・シーナーにおける生理学と認識障害」『共生のための障害の哲学Ⅱ 12』、pp.71-83
- 長田こずえ（2008）『開発の視点からの障害へのアプローチの考察：アラブ中所得国ヨルダンとレバノンにおける「障害の権利モデル」の妥当性の検討』、日本福祉大学博士論文
- 細谷幸子（2008）『現代イランにおける看護とイスラーム―女性看護師が男性患者のボディ・ケアをおこなう場面から―』『イスラーム世界研究』第2巻1号、pp. 92-162
- _____（2011）『イスラームと慈善活動―イランにおける入浴介助ボランティアの語りから』ナカニシヤ出版
- _____（2016）「テヘランの脊髄損傷者の生活状況―環境、家族・夫婦の関係性、社会とのつながりに注目して」原・中村編『イラン研究 万華鏡―文学・政治経済・調査現場の視点から』大東文化大学東洋研究所
- _____（2018）「NGOの活動と役割」山岸智子編著『現代イランの社会と政治―つながる人びとと国家の挑戦』明石書店